

芳賀の史跡めぐり

-19-

かんねんぶつくようろくじぞうせきどう 寒念仏供養六地藏石幢



上武国道の小神明信号から南下して、しばらく進むと右側に小神明霊園が見えます。昔は大墓場があったところですが、1970（昭和45）年にお墓を整備して先祖の霊をお祀りしました。この霊園入口の南脇に寒念仏供養と六地藏が一体となった、とても珍しい石造物があります。芳賀町誌によると、この石塔は高さ151cm、幅49cmの多層塔で、今から265年前の

1755（宝暦5）年に造られ、当時の小神明村の人々が奉納したことが記されています。
寒念仏供養は地域によって念仏の唱え方や方法は異なっているようですが、一般的には寒中30日間、夜に諸所を巡りながら、鉦（かね）をたたき念仏を唱えながら歩くものとされています。また、村の堂に講中（こうじゅう）が集まって、和讃（わさ）や念仏を唱える方法

もよく行われています。特に、寒中の念仏は難行で功德（くどく）が大きいと信じられて、民間にも行われるようになりました。この難行はもともと僧侶の修行だったもののようなのです。

六地藏は、お地藏様が、死後に地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上の六道を輪廻（りんね）迷いの世界を生き変わり・死に変わるものを救うという、六地藏信仰によるもので、お墓の入口などに六体の

地藏が並んでいることはよく知られています。

石幢の特色は、六角の基礎に寒念仏供養の文字が彫られ、六角柱の幢身に六角形の中台を乗せ、その上に六角柱の一面に一体ずつ六体の地藏が彫られた龕部（がんぶ）を乗せていることです。他に類のないこの石幢は、奉納したご先祖様が村中



の平和と繁栄を祈って、遺された大切なものです。

生涯学習奨励員
牧野 進



小神明霊園

11月の主な行事予定

11月7日（土）第一回みんなでトーンチャイムを演奏しよう
（芳賀公民館ホール）

11月8日（日）第一回コミュニケーション能力アップ講座
「対話法入門」（芳賀公民館ホール）

